



社会福祉法人 あいの土山福祉会

- 事業内容 高齢者福祉事業
- 職員数 76名(正規職員)
- 男女数 男性28名 女性48名
- 代表者 理事長 服部治男氏
- 所在地 甲賀市土山町北土山 2057

残業ゼロを徹底推進することで
男性の育児参画を促進

余裕のある人員配置により
育児休業の取得がスムーズ

冊子や研修会を通じて
育児分担への意識を促す

「働きやすさ」 優先の職場づくり。



残業なく余裕を持って働けるから育児参画しやすい。

「エーデル土山」で特別養護老人ホーム、ショートステイ等の高齢者福祉事業を手掛けるあいの土山福祉会。就労環境が厳しい、離職率が高いなど、介護事業者が向きあう現実を変えようと、「働きやすさ」を第一に考えた環境づくりを進めてきました。

「人材マネジメント手法が未整備だったため、離職が深刻化した時期があり、2012年に人材確保・労働室というプロジェクトチームを立ち上げて、男女を問わず、働きやすい環境を整えてきました」と廣岡隆之副施設長。めざしたのは残業・腰痛・メンタル不調を撲滅する「トリプルゼロ」で、電動リフトの導入で抱え介助の負担を軽減したり、定時10分前に業務終了予告を行う「マイナス10分運動」等によって残業を撤廃するなど、かなり大胆な改革に挑みました。

ワークライフバランスの充実にも配慮を注ぎ、女性の活躍を促す制度を充実させたほか、研修会やオリジナル編集した「ワークライフバランスの栞」を通じて「仕事優先や固定的な性別役割分担意識の是正」を啓発。これが男性職員の積極的な育児参画につながっています。

「介護現場の特殊事情に、結婚による男性職員の離職率の高さがあり、それを解消する意味でも、男女を問わず仕事と子育てを両立させやすい職場づくりに努めました」と廣岡副施設長。制度があるだけでは不十分と考え、周囲に気兼ねなく男性が育児参画できるよう、少し多めに職員数をそろえる「余裕のある人員配置」も敢行しました。

さらに、介護職員の負担を減らすためのワークシェアを導入。清掃等の業務については介護職員とは別に雇用したお陰で、なにかと働き方に余裕を持てるようになり、残業撤廃との相乗効果で男性の育児参画率は急上昇。「イクメン」をごく当然のことと考える雰囲気も定着しています。

これらの取り組みの結果、離職率は業界の平均を大きく下まわる2%にまで減少。平成28年度内閣府女性が輝く先進企業表彰を受賞しました。



生活相談員/2006年入職
奥村哲弥さん
健之助くん(2歳)を子育て中

就労環境に厳しさがある介護業界だからこそ、当法人が率先してそれを変えていこう。なにがなんでも変えてみせる。そんな揺るぎない意気込みがあったからこそ、私たちが安心して、気兼ねなく育児に参画できる現在の環境が整ったのだと思います。長男の健之助が1歳になる直前に1週間ほど育児を取得。1日中育児に向きあう大変さに気づき、それからは積極的に育児参画をしています。家庭生活を大切にしてこそ仕事も充実する。そんな考え方に基づく残業撤廃がしっかりと定着しているほか、余裕ある人員配置など、育児参画しやすい環境があるのですね。当初は「残業せずに仕事をこなせるか」と心配でしたが、定時退社を前提に1日の予定を組むことでクリア。18時には帰宅できるため、健之助との励めです。

食事や入浴が毎晩楽しみ、育児や家事を分担できるのでパートナーも笑顔です。心身ともに余裕を持って働ける環境だから、利用者さんや「やさしい」介護に励めです。

